

平成27年度施策評価シート

<1.施策の概要>

施策 No.	4311	施策名	干拓地をいかしたまち	主 担 当 課	干拓調整課
大項目	活気あるまちづくり				
基本 方針	岡山県と笠岡市が所有する笠岡湾干拓地粗飼料基地へ民間活力を導入し、地域産業の発展を促します。併せて、環境負荷に配慮した持続可能な循環型農業を目指します。更に、道の駅を活用した地域情報の発信などにより農業の振興と人の交流を進め、地域の活性化を図ります。			関 係 課	経済観光活性課
					農政水産課

<2.施策を構成する事務事業の概要>

1	干拓地有効活用推進事業											
事務事業の目的					事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地が有効活用され活性化する。			干拓地遊休地(民地)等の有効活用を図るため、営農希望者の斡旋等を行うと共に、粗飼料基地北端エリアに農業生産法人等の参入を進める。併せて干拓地情報の発信に努め、干拓地の活性化を図る。							
平成23年度		平成24年度			平成25年度			平成26年度				
取組内容	・民有農地の有効利用支援と調整 ・粗飼料基地の貸付 ・粗飼料基地北端エリアへの農業関連企業誘致 ・メガソーラーの誘致 ・道の駅の開設			・民有農地の有効利用支援と調整 ・粗飼料基地の貸付 ・粗飼料基地北端エリアへの農業関連企業誘致 ・メガソーラーの誘致・稼働			・民有農地の有効利用支援と調整 ・粗飼料基地の貸付 ・粗飼料基地北端エリアへの農業関連企業誘致 ・北端エリアの進入路、水路整備			・民有農地の有効利用支援と調整 ・粗飼料基地の貸付 ・粗飼料基地北端エリアへの農業関連企業誘致 ・干拓見学会の実施 ＜参加者36名＞		
	決算額	0	千円	決算額	0	千円	決算額	10,977	千円	決算額	611	千円
直接事業費	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	0	千円	うち一般財源	9,872	千円	うち一般財源	211	千円

2	バイオマスタウン推進事業(再掲)											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地の特性を生かしたバイオマス資源の利活用を図りながら、地域農業の活性化を目指すとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。				笠岡湾干拓地域バイオマスタウン構想のもと、バイオマス資源の利活用について、産学官による協議を行い、バイオディーゼル燃料(BDF)の干拓地利用などに取り組む。						
取組 内容	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
	・BDFの干拓地内利用の調査検討 ・バイオエタノール情報の収集 ・共同堆肥舎の増設検討 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験			・BDFの干拓地内利用の試行 ・バイオエタノール情報の収集 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験			・BDFの干拓地内利用 ・バイオエタノール情報の収集 ・共同堆肥舎増設の検討 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験			・BDFの干拓地内利用 ・バイオエタノール情報の収集 ・共同堆肥舎増設手続きの支援 ・添加物による良質な堆肥製造を目指した堆肥実験		
直接 事業費	決算額	5,195	千円	決算額	3,234	千円	決算額	3,934	千円	決算額	160	千円
	うち 一般財源	1,071	千円	うち 一般財源	628	千円	うち 一般財源	429	千円	うち 一般財源	160	千円

3	笠岡湾干拓地水質浄化対策事業(再掲)											
事務事業の目的						事務事業の内容						
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)										
笠岡湾干拓地 営農者 市民		笠岡湾干拓地の水環境を改善する取組を行うとともに、環境にやさしい農業を推進し、持続可能な循環型社会の形成に資する。				バイオマスタウン構想と連携し、農業関係者、市民及び行政が連携して環境負荷の低減に努め、干拓地の水質保全対策の推進を図る。						
	平成23年度			平成24年度			平成25年度			平成26年度		
取組内容	・負荷削減活動の推進 ・耕畜連携による堆肥の適正処理 ・茂平地区下水道の整備 ・バーレー排水等処理施設の検			・負荷削減活動の推進 ・耕畜連携による堆肥の適正処理 ・茂平地区下水道の整備			⇒			⇒		
	決算額	1,066	千円	決算額	729	千円	決算額	337	千円	決算額	193	千円
直接事業費	うち一般財源	566	千円	うち一般財源	365	千円	うち一般財源	137	千円	うち一般財源	193	千円

4	農業振興事業(再掲)												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
農業者新規就農希望者		農業者の規模拡大、経営の効率化を図る。 新規就農者により農業人口を増加させる。				認定農業者制度を活用した農家の育成 干拓地を生かした大規模農業の推進							
平成23年度		平成24年度				平成25年度			平成26年度				
取組内容	○農産物のブランド化 ○認定農業者認定・支援事業 ○担い手確保・育成・支援事業 ○新規就農者支援事業 ○耕作放棄地解消事業 ●農道離着陸場の多面的利用				⇒			⇒			●農道離着陸場の多面的利用 延べ日数 193日		
								●農道離着陸場の多面的利用 延べ日数 267日					
直接 事業費	決算額	16,656	千円	決算額	16,286	千円	決算額	16,674	千円	決算額	13,321	千円	
	うち 一般財源	10,797	千円	うち 一般財源	11,892	千円	うち 一般財源	13,082	千円	うち 一般財源	10,209	千円	

5	道の駅整備・運営事業(再掲)												
事務事業の目的						事務事業の内容							
対象(誰を)		意図(どのようにしたいのか)											
国道2号笠岡バイパス利用者及び道の駅利用者		道の駅の目的である休憩・道路情報の提供だけでなく、地元、笠岡市の新鮮な野菜・魚介類等の販売、地元食材を使った食事の提供、観光情報など、笠岡の良さを広範囲にPRできる一大情報発信基地とする。				①地域振興施設として道の駅を運営する。 ②道の駅周囲の農地を利用して景観作物を咲かせ、また、農業体験施設等でイベントなどを開催する。 ③道の駅の利用者を二次的に笠岡市内の施設及び飲食店等へ誘客し、経済効果を図る。							
		平成23年度		平成24年度		平成25年度			平成26年度				
取組内容		○道の駅整備 ・景観作物の作付 ・イベントの実施 ・新聞折込チラシの配布 ・施設の整備・管理 ・ツアーの実施		⇒		⇒			⇒ ・道の駅南側の圃場への排水溝の設置 ・道の駅北側の圃場への展望台通路の設置				
直接事業費		決算額	41,586	千円	決算額	39,347	千円	決算額	35,595	千円	決算額	33,717	千円
		うち一般財源	27,849	千円	うち一般財源	33,961	千円	うち一般財源	35,595	千円	うち一般財源	33,717	千円

＜3.施策の直接事業費(2の合計)＞

	平成23年度		平成24年度		平成25年度		平成26年度	
直接事業費	64,503	千円	59,596	千円	67,517	千円	48,002	千円
うち一般財源	40,283	千円	46,846	千円	59,115	千円	44,490	千円

＜4.指標＞

指標名				目標・実績の推移					
				H22実績	H23実績	H24実績	H25実績	H26実績	H29目標
1	農業法人の参入数	単位	目標				14	15	19
		件	実績	7	11	13	14	14	
			達成率				100.0%	93.3%	
2	遊休地面積	単位	目標				36	36	34
		ha	実績	58	48	43	36	34	
			達成率				100.0%	105.9%	
3	道の駅の入場者数	単位	目標				80	80	80
		万人	実績	—	60	80	79	87	
			達成率				98.6%	108.8%	

＜5.前年度の委員コメントに対する対応・回答＞

委員コメント	対応・回答
・健康志向への対応としての農産物の加工による高付加価値化と、ネット通販を利用した販売経路の開拓が必要と考えられます。	→ ネット通販はここ数年で急速に認知度を増し日常生活に著実に浸透しつつあります。現在ではネット上の販売者・商品は飽和状態となり、現実の店舗同様、同じ品なら宣伝力・価格競争力のある大企業がより有利に展開し、個人・小規模経営ではほとんど儲けにならないという見方もあります。近年の消費者の健康志向の高まりとともに、機能性や栄養を生かして加工された付加価値の高い農産物も増加してきましたが、これも例外ではありません。 最新の技術を取り入れあらゆる手段を検討することは必要ですが、扱うのがよい商品であるというだけでは販売にはなかなか結びつかず、根底には企画力・宣伝力が求められることもまた現実の店舗と同様です。後発者が戦っていくために必要なブランド確立に向けた方針の樹立とノウハウの蓄積を、前段階として進めてまいります。
・道の駅の整備・運営事業の取り組みにより、観光客が増加しており、非常に素晴らしいことだと考える。しかし、国、県等の関係で困難な面もあると考えるが、農業振興だけでなく、商業の活性化等、横の連携もしていただきたい。	→ 平成25年度期における道の駅来場者数は844,535人と、昨年度に比べて45,972人増加し、オープン1年目の87万人に迫る勢いでしたが、「生産者と消費者、あるいは農村と都市を結ぶ地域の振興施設」という、道の駅を建設した当初の目的を達成するため、今後も、道の駅が拠点となり、笠岡市全体にその経済効果が波及できるよう、国、岡山県、近隣市町村などの関係機関と連携しつつ、その具現化に向けて努めて参ります。
・2号バイパスの通行、道の駅開業で干拓内を走る車が多くなった。安全対策は考えられたい。	→ 交通安全対策として道路路肩の草刈りを行っていますが、更なる安全対策のために、幹線道路においては、交差点部を防草対策を施し視距の確保ができるようにします。

＜6.平成26年度の振返り＞(担当部署自己評価)

施策の進捗度	A: 施策を構成する事業が順調に進行している。 B: 施策を構成する事業がおおむね順調に進行している。 C: 施策を構成する事業が一部遅れている。 D: 施策を構成する事業がほとんど遅れている。	B
--------	--	---

＜7.施策の課題と改善案＞

課題と改善案	・遊休地の解消のためには土地の流動化を促す必要があるため、離農希望者の農地や休耕地を営農意欲ある企業や個人に斡旋・紹介する。 ・水質保全対策の実施により水質がさらに悪化することは防いでいるが改善には至っていないため、効果のある対策については継続的に取り組む。 ・あらゆる機会を利用して農産物のPRを行う。農産品のブランド化を倉敷かさや農協と連携して進める。 ・道の駅笠岡ベイファームは道の駅の目的である休憩・道路情報の提供だけでなく、地元、笠岡市の新鮮な野菜・魚介類等の販売、地元食材を使った食事の提供、観光情報など、笠岡の良さを広範囲にPRできる一大情報発信基地であることを再確認し、道の駅の利用者を二次的に笠岡市内の施設及び飲食店等へ誘客し、経済効果を図る。
--------	--

＜8.委員による評価結果＞

総合評価	A: 計画どおり進行している。 B: おおむね計画どおり進行している。 C: 計画より一部遅れている。 D: 計画より遅れている。	B	(参考) 昨年度の評価結果 (前期4年間の総合評価)	B
コメント	・6次産業化および観光農園等による高付加価値製品を開発することもあると考えられます。 ・道の駅周辺のひまわり、ポピー等の花を元々よく育てて欲しい。現在では、ひまわりは連作障害により背が低く、雑草にも負けるなど、元気に育っていない。工夫をして良く育つようにして、観光客の増加に役立ててほしいと考える。			